

## 第 9 講 石油トラストの成立と解体 (後半)

20040611

### 【1】スタンダード・オイルの解体と寡占体制の確立

#### 新たな環境

##### ①石油需要

20 世紀 石油製品に対する需要の増大(輸出比率減少のもと国内需要増加)

需要構成の変化(照明用灯油→(電灯の普及)→産業用燃料油・ガソリン)

##### ②新油田

スタンダード・オイルが支配するアパラチア油田・ライマ=インディアナ油田のほかにカリフォルニア、メキシコ湾岸(ガルフ、テキサス州)、ミッド・コンチネント(オクラホマ州)、イリノイの 4 油田の成長

##### ③反トラスト運動→1911 年スタンダード・オイル解体判決

#### [1]独立系企業(インディペンデント)の台頭

(1)アパラチア油田・ライマ=インディアナ油田→ピュア・オイル社

(2)ガルフ油田→ガルフ・オイル社、テキサス社(テキサコ)

(3)カリフォルニア油田→ユニオン・オイル社とアソシエイテッド・オイル社

(4)ミッド・コンチネント油田・イリノイ油田

→スタンダード・オイルの地位の低下

新油田の出現→各地域で多数の統合企業生まれ、スタンダード・オイルの地位を蚕食(ガルフ油田の急成長) ×スタンダード・オイル経営陣は反トラスト的雰囲気のもと、有効な対処策を示せず。→スタンダード・オイルのシェア低下(表 5-2)

#### [2]スタンダード・オイルの解体と寡占体制の確立

1911 年 5 月 15 日 最高裁判決→持株会社ジャージー・スタンダード社:シャーマン反トラスト法違反→74 の子会社のうち 33 社を分離×ロックフェラー一族により 33 社の相当数の株式が所有される←「解体は名目的」×1892 年の解体の場合のような非公式な指導部をもつ利益共同体は形成されなかった。

第一次大戦中と戦後の石油製品に対する需要の増大、とりわけ自動車産業の発展によるガソリン需要の爆発的な増大→スタンダード・オイル系、独立系あいみだれての激しい競争→セブン・シスターズ(7 人の魔女)の時代へ

スタンダード・オイル系

・エクソン……1998 年、モービルと合併

- ・ モービル……1998年、エクソンと合併
- ・ ソーカル……1984年ガルフを併合→「シェブロン」へ
- ・ ガルフ……正式社名「スタンダード・オイル・オブ・カリフォルニア」。1984年ソーカルに吸収合併され「シェブロン」に。

#### 独立系

- ・ テキサコ

#### 英蘭系

ロイヤル・ダッチ・シェル

ブリティッシュ・ペトロリアム(BP)……1909年設立。

#### 次講 ビッグスリーの成立ー GM とフォード

テキスト 『ケースブックアメリカ経営史』

7章 自動車産業とフォード 8章 フォードとGM

●デュラントによる買収とGM成立→構造的経営危機をスローンはどのように乗り切ったか? 参考文献 スローン『GMとともに』(ダイヤモンド社)1~3章

●フォード・システムとは何か?

参考文献 塩見治人『現代大量生産体制論:その成立史的研究。(森山書店、1978年)